科目名（英）	総合演習Ⅲ General ExerciseⅢ	必修選択	必修	年次	3年次	担当教員	前田 晃太郎/齊藤 浩吉/王子 由佳里/ 笹尾可那/種村 啓司
		授業形態	講義	総時間（単位）	120 4	開講区分	前期
学科・コース	鍼灸科					曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

①総合演習Ⅲではこれまでに学習した国家試験に出題される主要科目について整理し、基礎医学系科目と臨床医学系科目とのつながりを深める。
②総合演習Ⅲでは各科目の進行状況に合わせ、国家試験主要科目について再学習する。
③様々な過去問を利用し、各科目の苦手項目を把握し苦手範囲を再学習する。
前田
実務実績　付属治療院での診察から治療までの業務に従事　各種スポーツのトレーナー活動
　　医療系専門学校にて教鞭をとる。
資　　格　はり師・きゅう師、JRFUセーフティアシスタント

【到達目標】

①国家試験の主要科目と出題傾向を理解する。
②学習プランを逆算して作成できる。
③自身の苦手な科目、項目を理解する。
④プランに従って学習し、模擬試験において各科目60%以上の得点率を達成する。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション　国家試験について （出題形式および問題数など傾向分析について）
2回目	国家試験対策の学習方法について 年間学習計画をプランニングできる。
3回目	解剖学 《人体の構成》/生理学 《生理学の基礎》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
4回目	解剖学 《骨格系》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
5回目	解剖学 《筋系》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
6回目	生理学 《筋肉》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
7回目	解剖学 《人体の構成、骨格系、筋系》/生理学 《生理学の基礎、筋肉》 到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
8回目	解剖学 《循環器系》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
9回目	生理学 《循環器》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
10回目	解剖学 《呼吸器系》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
11回目	生理学 《呼吸》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
12回目	解剖学 《循環器系、呼吸器系》/生理学 《循環器、呼吸》 到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
13回目	解剖学 《消化器系》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
14回目	生理学 《消化と吸収》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
15回目	解剖学 《生殖器系、内分泌系》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
準備学習時間外学習	授業では過去問を利用して自身の知識確認を行うため、事前学習は必須である。事前学習は授業計画に従い行うこと。 国家試験該当科目は科目数が多いこと、出題範囲も広いためしっかり事前学習を行い授業内での課題により苦手、知識不足を把握し速やかに補うこと。 月1実施される模擬試験にて学習した範囲においては誤答がないようしっかり学習すること。 模擬試験にて誤答した場合、その項目をしっかりと再学習すること。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 　『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

教科書　医歯薬出版　　解剖学第2版、生理学第3版、病理学概論第2版、衛生学・公衆衛生学第2版、臨床医学総論第2版
公益財団法人東洋療法研修試験財団　はり師きゅう師国家試験出題基準　平成26年版

科目名（英）	総合演習Ⅲ General ExerciseⅢ	必修選択	必修	年次	3年次	担当教員	前田 晃太郎/齊藤 浩吉/王子 由佳里/ 笹尾可那/種村 啓司
		授業形態	講義	総時間（単位）	120 4	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	鍼灸科					曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

①総合演習Ⅲではこれまでに学習した国家試験に出題される主要科目について整理し、基礎医学系科目と臨床医学系科目とのつながりを深める。
②総合演習Ⅲでは各科目の進行状況に合わせ、国家試験主要科目について再学習する。
③様々な過去問を利用し、各科目の苦手項目を把握し苦手範囲を再学習する。
前田
実務実績　付属治療院での診察から治療までの業務に従事　各種スポーツのトレーナー活動
　　医療系専門学校にて教鞭をとる。
資　　格　はり師・きゅう師、JRFUセーフティアシスタント

【到達目標】

①国家試験の主要科目と出題傾向を理解する。
②学習プランを逆算して作成できる。
③自身の苦手な科目、項目を理解する。
④プランに従って学習し、模擬試験において各科目60%以上の得点率を達成する。

授業計画・内容	
16回目	生理学 《生殖と成長、内分泌》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
17回目	解剖学 《消化器系、生殖器系、内分泌系》/生理学 《消化と吸収、生殖と成長、内分泌》 到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
18回目	解剖学 《神経系》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
19回目	生理学 《神経、身体の運動》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
20回目	解剖学 《感覚器系》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
21回目	生理学 《感覚、生体防御機構、ホメオスタシスと生体リズム》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
22回目	解剖学 《神経系、感覚器系》/生理学 《神経、身体の運動、感覚、生体防御機構、ホメオスタシスと生体リズム》 到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
23回目	経絡経穴学 《経脈の意義、経穴の意義と概要、所属経穴を持つ奇経》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
24回目	経絡経穴学 《正経十二経脈①》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
25回目	経絡経穴学 《正経十二経脈②》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
26回目	経絡経穴学 《正経十二経脈③》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
27回目	経絡経穴学 《正経十二経脈④》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
28回目	経絡経穴学 《正経十二経脈⑤》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
29回目	経絡経穴学 《経穴の応用、経絡経穴の現代医学的研究》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
30回目	経絡経穴学　到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
準備学習時間外学習	授業では過去問を利用して自身の知識確認を行うため、事前学習は必須である。事前学習は授業計画に従い行うこと。 国家試験該当科目は科目数が多いこと、出題範囲も広いためしっかり事前学習を行い授業内での課題により苦手、知識不足を把握し速やかに補うこと。 月１実施される模擬試験にて学習した範囲においては誤答がないようしっかり学習すること。 模擬試験にて誤答した場合、その項目をしっかりと再学習すること。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 　『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

教科書　医歯薬出版　　解剖学第2版、生理学第3版、病理学概論第2版、衛生学・公衆衛生学第2版、臨床医学総論第2版
公益財団法人東洋療法研修試験財団　はり師きゅう師国家試験出題基準　平成26年版

科目名（英）	総合演習Ⅲ General ExerciseⅢ	必修選択	必修	年次	3年次	担当教員	前田 晃太郎/齊藤 浩吉/王子 由佳里/ 笹尾可那/種村 啓司
		授業形態	講義	総時間（単位）	120 4	開講区分	後期
学科・コース	鍼灸科					曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

①総合演習Ⅲではこれまでに学習した国家試験に出題される主要科目について整理し、基礎医学系科目と臨床医学系科目とのつながりを深める。
②総合演習Ⅲでは各科目の進行状況に合わせ、国家試験主要科目について再学習する。
③様々な過去問を利用し、各科目の苦手項目を把握し苦手範囲を再学習する。
前田
実務実績　付属治療院での診察から治療までの業務に従事　各種スポーツのトレーナー活動
　　医療系専門学校にて教鞭をとる。
資　　格　はり師・きゅう師、JRFUセーフティアシスタント

【到達目標】

①国家試験の主要科目と出題傾向を理解する。
②学習プランを逆算して作成できる。
③自身の苦手な科目、項目を理解する。
④プランに従って学習し、模擬試験において各科目60%以上の得点率を達成する。

授業計画・内容	
31回目	経絡経穴学から考える解剖学・生理学について 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
32回目	臨床医学総論 《診察法、臨床検査》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
33回目	臨床医学総論 《治療法、臨床心理》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
34回目	臨床医学総論 《診察法、臨床検査、治療法、臨床心理》 到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
35回目	臨床医学総論 《症候①》（全身の症候、皮膚・外表、感覚器） 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
36回目	臨床医学総論 《症候②》（呼吸器、心臓、血管、消化器） 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
37回目	臨床医学総論 《症候③》（血液、造血器、免疫、泌尿、生殖器） 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
38回目	臨床医学総論 《症候④》（心理・精神機能、神経、運動器） 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
39回目	臨床医学総論 《症候》（全身の症候、皮膚・外表、感覚器、呼吸器、心臓、血管、消化器） 到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
40回目	臨床医学総論 《症候》（血液、造血器、免疫、泌尿、生殖器、心理・精神機能、神経、運動器） 到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
41回目	臨床医学総論から考える解剖学・生理学について 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
42回目	東洋医学概論 《東洋医学の基礎、気血・津液の生理》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
43回目	東洋医学概論 《六臓六腑、臓腑経絡論》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
44回目	東洋医学概論 《病因論、病理と病証》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
45回目	東洋医学概論 《東洋医学の基礎、気血・津液の生理、六臓六腑、臓腑経絡論、病因論、病理と病証》 到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
準備学習時間外学習	授業では過去問を利用して自身の知識確認を行うため、事前学習は必須である。事前学習は授業計画に従い行うこと。 国家試験該当科目は科目数が多いこと、出題範囲も広いためしっかり事前学習を行い授業内での課題により苦手、知識不足を把握し速やかに補うこと。 月1実施される模擬試験にて学習した範囲においては誤答がないようしっかり学習すること。 模擬試験にて誤答した場合、その項目をしっかりと再学習すること。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 　『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

教科書 医歯薬出版　　解剖学第2版、生理学第3版、病理学概論第2版、衛生学・公衆衛生学第2版、臨床医学総論第2版、臨床医学各論第2版、
　　医道の日本社　経絡経穴概論第2版、はりきゅう理論
　　文光堂　　鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ
公益財団法人東洋療法研修試験財団　はり師きゅう師国家試験出題基準　平成26年版

科目名（英）	総合演習Ⅲ General ExerciseⅢ	必修選択	必修	年次	3年次	担当教員	前田 晃太郎/齊藤 浩吉/王子 由佳里/ 笹尾可那/種村 啓司
		授業形態	講義	総時間（単位）	120 4	開講区分	後期
学科・コース	鍼灸科					曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

①総合演習Ⅲではこれまでに学習した国家試験に出題される主要科目について整理し、基礎医学系科目と臨床医学系科目とのつながりを深める。
②総合演習Ⅲでは各科目の進行状況に合わせ、国家試験主要科目について再学習する。
③様々な過去問を利用し、各科目の苦手項目を把握し苦手範囲を再学習する。
前田
実務実績　付属治療院での診察から治療までの業務に従事　各種スポーツのトレーナー活動
　　医療系専門学校にて教鞭をとる。
資　　格　はり師・きゅう師、JRFUセーフティアシスタント

【到達目標】

①国家試験の主要科目と出題傾向を理解する。
②学習プランを逆算して作成できる。
③自身の苦手な科目、項目を理解する。
④プランに従って学習し、模擬試験において各科目60%以上の得点率を達成する。

授業計画・内容	
46回目	東洋医学概論 《東洋医学的診察法と証の立て方》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
47回目	東洋医学概論 《治療法》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
48回目	東洋医学概論 《東洋医学的診察法と証の立て方、治療法》 到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
49回目	臨床医学各論 《感染症》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
50回目	臨床医学各論 《神経・筋疾患》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
51回目	臨床医学各論 《呼吸器・胸壁疾患》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
52回目	臨床医学各論 《循環器疾患》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
53回目	臨床医学各論 《消化器疾患》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
54回目	臨床医学各論 《泌尿器疾患》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
55回目	臨床医学各論 《感染症、神経・筋疾患、呼吸器・胸壁疾患、循環器疾患、消化器疾患、泌尿器疾患》 到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
56回目	臨床医学各論 《血液・造血器疾患、代謝・栄養疾患、内分泌疾患》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
57回目	臨床医学各論 《運動器疾患》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
58回目	臨床医学各論 《皮膚・頭頸部疾患、精神・心身医学的疾患》 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
59回目	臨床医学各論 《血液・造血器疾患、代謝・栄養疾患、内分泌疾患、運動器疾患、皮膚・頭頸部疾患、精神・心身医学的疾患》 到達度確認 弱点を把握し、再学習を行うことができる。
60回目	臨床医学各論から考えた解剖学、生理学について 国家試験に出題された問題が正答できるレベルの知識を有することができる。正答を導き出すための再学習を行うことができる。
準備学習時間外学習	授業では過去問を利用して自身の知識確認を行うため、事前学習は必須である。事前学習は授業計画に従い行うこと。 国家試験該当科目は科目数が多いこと、出題範囲も広いためしっかり事前学習を行い授業内での課題により苦手、知識不足を把握し速やかに補うこと。 月1実施される模擬試験にて学習した範囲においては誤答がないようしっかり学習すること。 模擬試験にて誤答した場合、その項目をしっかりと再学習すること。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 　『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】
教科書 医歯薬出版　　解剖学第2版、生理学第3版、臨床医学総論第2版、臨床医学各論第2版、
　　医道の日本社　経絡経穴概論第2版、はりきゅう理論
　　文光堂　　鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ
公益財団法人東洋療法研修試験財団　はり師きゅう師国家試験出題基準　平成26年版